

授業概要

漢詩は古典中国語で綴られるが、必ずしも中国の詩人達が詠んだものばかりではなく、日本でも奈良朝以前から多くの優れた詩人を輩出している。この講義では日本最初の漢詩集『懷風藻』に収められている代表的な詩人を取り上げる。作者の経歴と作品そして詩の製作の場を詩人の生きた時代に結び付けて鑑賞しつつ、漢語文学の織り出す東アジア的な風流な世界について考える。

授業計画

第1回	『懷風藻』とその時代を概説する
第2回	大友皇子の詩を読む
第3回	釈智蔵の伝を読む
第4回	釈智蔵の詩を読む
第5回	大津皇子の詩を読む（1）
第6回	大津皇子の詩を読む（2）
第7回	大津皇子の詩を読む（3）
第8回	葛野王の詩を読む
第9回	大神高市麻呂の詩を読む
第10回	釈弁正の伝を読む
第11回	釈弁正の詩を読む
第12回	藤原不比等の詩を読む（1）
第13回	藤原不比等の詩を読む（2）
第14回	文武天皇の詩を読む（1）
第15回	文武天皇の詩を読む（2）
第16回	総まとめ

到達目標

漢詩の鑑賞を通して、作品を生み出した時代を感受し、東アジア地域の文化交流について理解を深める。

履修上の注意

授業にはプリントを使うので、履修者は毎回出席してメモをとるよう求む。

予習復習

この授業はプリントを使うので、授業中に取ったメモの整理と復習が大切である。

評価方法

履修の態度と練習、期末試験によって総合的に評価する。

テキスト

プリントを使うが、併用テキストは開講時に指示する。